

# 令和8年度 檜山地区の巻

事務局 乙部町立乙部中学校

檜山校長会は、檜山管内7町の小学校15校、中学校10校の校長で構成している。本会は、昭和23年の創立以来78年にわたり、管内教育の充実・発展のために研究と実践を積み重ねるとともに、教育条件の整備・充実等に努めるなど、組織の総力を挙げて向上的な取組を推進している。



<日本海に沈む夕陽と三本杉岩（せたな町）>

## I 本年度の活動方針

未来を生きる子どもたちが予測困難な社会を主体的に生きていくためには、変化への適応に加え、新たな価値創造や他者と協働し課題を解決する力が必要である。そのため、学校は「温故知新」の精神を大切にしつつ、これからの教育の姿を追求し、未来社会で活躍する子どもたちを育む教育を創造しなければならない。

こうした中、校長は明確なビジョンの下、組織運営を高度化して多様な課題に対応し、教育課程を統合的に管理する責務を担っている。

また、今日の檜山における学力・体力の向上、学校運営の安定は、これまでの先達の努力の上に成り立っている。

檜山校長会はこうした檜山の教育を未来へ継承し発展させるため、共同してその役割と責任を果たしつつ、「ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒」を育む学校経営の在り方を探求し、保護者や住民の負託と信頼に応える教育活動の推進と充実を図っていく。

## II 活動の重点

### 1 組織マネジメントを生かした活力ある学校経営の推進

組織マネジメントの取組を一層充実させ、学校経営の重点課題を明確にするとともに、校長のリーダーシップ向上と協働的な組織づくりを通して、教職員の参画意識を高める体制を強化する。

### 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善（重点）

学習指導要領の理念に基づき、「生きる力」を育む教育課程の充実を図る。授業改善を組織的に推進し、教育課程の編成・実施・評価の各段階で成果・課題を生かすPDCAサイクルを強化する。また、地域素材を活用した学び

や探究的な学習を発展させ、児童生徒の主体的な学びを支える環境づくりを通して、「生きる力」の育成を図る。

### 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進

日常的な生徒指導体制の質を高め、児童生徒の自発的・主体的な成長を支える組織づくりを一層推進する。特別支援教育では、檜山管内特別支援連携協議会設置学校長部会等との連携を強化し、各校が実践を共有しながら支援体制の改善を進める。

### 4 教職員の資質能力の総合的な向上（重点）

令和7年度の研修や情報交換により得られた成果と課題を整理し、教職員の経験や専門性を生かす研修体系への再構築を図る。各校の取組を共有し、キャリアステージに応じた資質・能力向上につながる仕組みを強化する中で、協働的な学びを促す環境づくりを推進し、学校組織全体の成長を支える文化を醸成する。

### 5 服務規律の厳正な保持（最重点）

コンプライアンス確立会議や私費会計調査の取組と反省を踏まえ、服務規律に関する檜山校長会の点検・指導機能を強化する。管理職を含む教職員の意識のズレを是正するため、具体的事例に基づく研修や内部牽制の仕組みを再整備し、服務規律の遵守状況を定期的に検証することで、透明性の高い運用を徹底し、信頼される学校づくりに努める。

### 6 組織活動の活性化と充実（重点）

令和7年度の教育研究上ノ国大会や小・中別部会の成果と反省を踏まえ、檜山校長会全体で研修内容と運営体制を見直し、実効性の高い組織的学びを推進する。各専門部の役割分担を明確にし、活動の可視化と情報共有を強化することで組織運営の質を

高め、会員相互の連携を深める。

## 7 ミドルリーダー並びに管理職候補者等の育成

管内教育の安定・充実のため、意欲ある管理職候補者及びミドルリーダーの発掘・育成は喫緊の課題である。檜山学校運営研修会等の成果と課題を踏まえ、候補者育成を計画的に進めるとともに、人材育成の視点から体系的な研修機会を拡充する。

## 8 防災教育と健康安全教育の充実

令和7年度は、防災教育研修会や道小根室大会での提言発表を通して得られた成果と課題を整理・共有することができた。今年度は、特に「地域との連携」「子供の主体性」「教員の瞬時の判断」を改善の視点として位置付け、校内体制の強化を進める。

## 9 学校における「働き方改革」の推進

第3期「北海道アクション・プラン」に基づき、業務の明確化・適正化、組織運営体制の見直し、教職員の意識改革を通して、効果的な教育活動を実現する「働き方改革」の推進と検証・改善に努める。ICT活用による校務の効率化、保護者・地域等との連携協働、教員へのサポート体制の強化などを通して、持続可能な働き方改革の推進を図る。

## III 各部の活動方針

### 1 経営部

学校経営に関わる研修を進め、活動の充実に努める。また、学校経営に必要な法的根拠をもとに研修を深める。

- ① 各学校における経営上の当面する諸課題について、研修と会員間の交流を深め、その解決に努める。
- ② 檜山校長会各部との連携・協働を図り、学校経営上必要な調査・研究を行うとともに、地区別教育研究大会（江差大会）の準備・運営に努める。
- ③ 北海道小学校長会及び北海道中学校長会との連携を密にして、当面する諸課題の解決に当たる。
- ④ 学校経営に関する必要事項を検討し、先進的な実践事例等について紹介する。

### 2 研修部

檜山校長会は檜山の教育課題をもとに、研究主題「ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒

の育成～多様な子供たちを包摂する教育課程を編成し、地域とともに歩む学校づくりの推進～」を掲げ、研究のより一層の充実発展を図る。これまでの第十三次3か年研究の成果を生かし、令和8年度より第十四次3か年研究を推進し、各町校長会の組織的、継続的な共同研究体制を強化し、各学校、各町校長会の教育推進や研究の還流に努めるとともに、職能の向上を図っていく。

## 3 情報部

- ① 事務局及び各部との連携を密にして、校長会の動向、会員の動静を周知する。
- ② 北海道小学校長会、北海道中学校長会との連携を基に会員の投稿の活性化を図るとともに、機関誌等を通じて全国、全道の動向を還流する。
- ③ 管内各町及び各方面校長会の発展に寄与する。
- ④ 退会会員との交流を図り、檜山校長会の発展に寄与する。
- ⑤ 会員の文化活動の向上に努める。

## 4 対策部

- ① 学校経営上の諸問題や教育条件についての国や道・教育局に対する要望活動のための調査・情報収集・調整等を行う。
- ② 会員の身分の確立、勤務条件等の整備充実、組織の教科に必要な状況把握等を行い、他団体との連携強化に努める。
- ③ 教職員の安定した生活のために福利厚生者の充実を目指し、状況の把握と条件整備を図る。

## IV 役員

会 長	吉川 聖 (厚沢部小)
副 会 長	米谷 優 (江 差 中)
監 査	村田 真一 (今 金 中)
〃	工藤 崇 (久 遠 小)
事務局 長	関田 貴人 (乙 部 中)
事務局 次 長	岡 健 (厚沢部中)
〃	小山 彰 (北檜山小)
会 計 長	北川 美香 (上ノ国小)
経 営 部 長	桜庭 一宏 (上ノ国中)
研 修 部 長	西山 恭史 (北檜山中)
情 報 部 長	井田 昌之 (河 北 小)
対 策 部 長	越前 秀一 (乙 部 小)
小 学 校 部 会 長	久慈 学 (江 差 小)
中 学 校 部 会 長	村田 真一 (今 金 中)